

フリーズ&センチメンズ①

3月は防災月間です。そこで今回紹介するのが、『防災・減災につながるハザードマップの活かし方』です。ハザードマップ、皆さんは活用されているでしょうか？ 区内の図書館では足立区の洪水ハザードマップや防災マップを所蔵していますが、行政資料コーナーに眠ったままで、閲覧の機会も少ないように感じます。しかし、災害は忘れたころにやってきます。地震や洪水が起った時、ハザードマップを取り出して、じっくり眺めている時間はありません。平常時こそ地図をよく確認し、いざ災害が起った時にどのような行動をとればいいのか、考えておく必要があります。ハザードマップに何が書かれていてどう読み解くかを知ること、いざという時も冷静な判断と速やかな行動が可能になります。この本でも述べられている通り、行政からの通達を待っているだけでは不十分な場合もあります。個人や家庭での「自助」を基盤に、地域の方々の「共助」による防災・減災を第一に考えていきましょう。(丸山)

ニッポンの文化探訪③

今回のテーマは3月の風物詩ともいえる「ひなまつり」。はじまりは平安時代中期頃で、当時は3月の初めの巳の日に行う上巳(じょうし)の節句という、無病息災を願う厄祓いの行事でした。天地の神に祈りを捧げ、季節の食物を供えて、木やワラで作られた人形(ひとがた)に自分の災厄を封じ込めて海や川に流します。その人形は次第に遊び道具となり、江戸時代、技術の普及とともに現在のひな人形へと姿を変えました。3月3日にひな人形を飾り、ひな壇の前でご馳走を食べる風習が生まれたのもこの時期だそうです。

今回紹介する『のはらのひなまつり』では、とまごが画用紙や色紙でつくったおひなさまを、どうぶつたちが野原のたんぼぼと一緒に飾り、絵本に登場するみんなが輪になってひなまつりを楽します。華やかなひな人形も素敵ですが、温もりを感じる手作りのおひなさまも良いもの。それぞれの形で、無病息災を願うひなまつり本来の姿に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(本田)

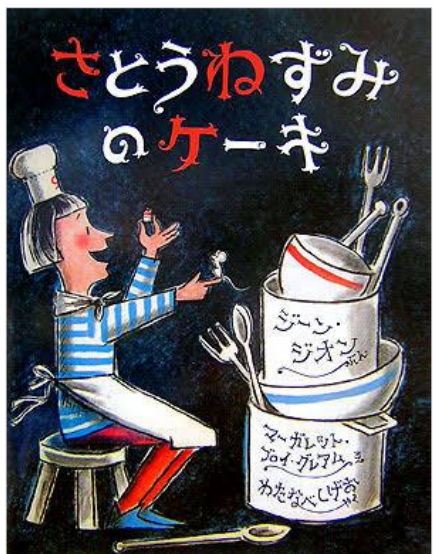
やよい TOPIX 本と出会う。



「災害時に身を守るために、結局は自分自身の判断が必要です」



① 『防災・減災につながるハザードマップの活かし方』 鈴木康弘／編 岩波書店



② 『さとうねずみのケーキ』 ジーン・ジオン／文 マーガレット・ブローイ・グレラム／絵 わたなべしげお／やく アリス館
こんな本もありますよ！
『あんこのことがすべてわかる本 つくる、食べる、もてなす』 芝崎 本実／あんこ事典監修 誠文堂新光社
『シユガータイム』 小川 洋子／著 中央公論新社



③ 『のはらのひなまつり』 神沢利子／作 岩村 和朗／絵 金の星社



④ 『不都合な真実2』 アル・ゴア／著 実業ス日本社

読書の窓

②

3月10日は砂糖の日。砂糖についての啓発活動を行っている「お砂糖“真”時代」推進協議会が、砂糖の優れた栄養価などを見直す日として制定したそうです。

今回ご紹介するのは、『どろんこハリー』などで有名なジーン・ジオン作の絵本『さとうねずみのケーキ』です。主人公の見習いコック・トムは、ケーキ作りがとても上手。ですが、いつも皿洗いしかさせてもらえませんが、それを知っているのは彼の唯一の友だち、芸達者な白ねずみのティナだけでした。そんなある日、お城で料理長を決めるためにケーキコンテストが開かれることになりました。トムは張り切って、白砂糖でできたねずみで飾った立派なケーキを作りますが…。

マーガレット・ブローイ・グレラムのかわいらしい絵と、何度もハラハラする展開で、大人でも楽しく読める1冊です。ぜひ、トムのケーキの味を思い浮かべながら読んでみてください。(松野)

再生館 セレクト ④

「諦めるのはまだ早い 解決策はここにある」

2006年、アル・ゴアは「不都合な真実」と題された本と映画で世界中に「地球温暖化対策を早急に行い、持続可能な世界を創り出さないと未来は無い」という恐ろしい現実を突きつけました。このゴアの告発はその後大きな社会変革となり、2016年「パリ協定」という大きな成果を生み出しましたが、一方でトランプ米大統領に代表される「環境問題に目を閉ざす」反対も根強いものがあります。

「不都合な真実」から10年、再び映画と共に発売されたこの本は難しい内容が視覚的によく編集されているので、読んで理解できなくとも、何が問題か？ が判り易いです。

この10年で温暖化は益々進んでいます。同時に様々な解決策も動き出しています。この本はあだち再生館の図書コーナーに置いてありますのでぜひどうぞ。(再生館職員)